

(2023 年度) 日本認知・行動療法学会 SIG 活動報告書

1. 日本認知・行動療法学会 SIG 名 (スポーツと認知行動療法 SIG)
2. 記入者 (立命館大学 井上和哉)
3. 一年間の活動実施報告 (各企画の日付、SIG の参加者、実施した活動の内容や成果、業績などについて報告してください。なお、SIG で開かれる活動において、年会費や参加費などで収入が発生した場合、収支報告 (様式任意) を別途提出してください。)

	活動内容、成果、業績等
9月19日	<p>第2回スポーツ×CBT (認知行動療法研究会) 発表者 平田大智先生 (関西学院大学) タイトル: 高校生の水球競技において行動的コーチングがシュートフォーム改善とシュート成功に及ぼす効果</p> <p>発表者 榎本恭介先生 (清和大学) タイトル: 認知行動療法を用いた審判員に対する抗議減少のための介入—大学生サッカー競技者を対象に—</p>
3月29日	<p>第3回スポーツ×CBT (認知行動療法研究会) 発表者 並木伸賢先生 (早稲田大学) タイトル: アスリートのキャリア支援の歴史と展開</p> <p>研究会の主な参加者: 井上和哉、栗林千聡先生、平田大智先生、金澤潤一郎先生、土井理美先生、深町花子先生、榎本恭介先生、並木伸賢先生、清水登大先生、八斗啓悟先生、上田寛先生ら</p> <p>上記の研究会によって、アスリートが置かれている状況や立場の理解を深め、今後、どのような心理的支援および研究を実施していくことができるかについて議論を深めた。また、研究会の実施は研究者間ネットワークの構築に寄与し、共同研究の実施にも繋がっている。</p>

	また、本 SIG のウェブページを作成し、一般の方向けにも活動内容や成果を公開していく仕組みを作成した。
--	--

4. 次年度の活動予定 (300 字程度)

- ・9月、3月に一度ずつ、スポーツ×CBT（認知行動療法研究会）を実施する。3月については、一般の方やアスリート向けの公開シンポジウムを開催し、アスリート支援の研究内容を広く届けることを目指す。
- ・9月の日本認知・行動療法学会第50回記念大会において、企画シンポジウムを実施する。